

## 名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 栗田満信 氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、住友金属工業株式会社元相談役 栗田満信氏は、平成31年4月13日に逝去されました。享年94歳。逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和22年東京帝国大学第一工学部冶金学科卒業後、住友金属工業株式会社に入社。昭和52年取締役、昭和56年常務取締役、昭和58年専務取締役鹿島製鉄所所長、昭和61年日本ステンレス株式会社に転じ社長に就任、平成4年住友金属工業株式会社との合併を実現し取締役相談役に就任、平成6年相談役退任まで、要職を歴任されました。

氏は、尼崎鋼管製造所平炉で製鉄マン人生をスタート。その後、大局的観点から高度成長時代の和歌山製鉄所、鹿島製鉄所の現場にあって両製鉄所の上工程設備の革新・増強を牽引するとともに、製鋼技術を中心とした生産技術の開発に情熱を傾け、その豊富な経験と深い学識に基づき先進技術の開発・実用化を積極的に推進されました。

鹿島製鉄所では業界に先駆けて開発した転炉複合吹錬技術と、脱りん炉・脱炭炉からなるSRPプロセス（Sumitomo Simple Refining Process）の実用化にリーダーシップを発揮されました。このプロセスはその後、和歌山製鉄所の新製鋼工場に適用され、今日では高純度高級鋼量産の標準プロセスとなっています。また世界最先端の大型高速連続鑄造設備を熱延ミルライン上流に建設し、大量生産の連鑄・熱延直結プロセスを実現、今日もなお同製鉄所の基幹プロセスとして機能し品質・コスト競争力の基盤となっています。その技術を基に、米国J & L社（LTV スチール）に連続鑄造の操業・品質管理・保全に関する技術指導、また製鋼からシームレス鋼管製造の技術指導を実施する等、世界の鉄鋼業の発展に大きく貢献されました。

また、第一次オイルショック以降、省エネルギー重視の観点から高炉の低コークス比操業化はもとより、転炉ガス回収技術の改善、転炉ガスからの炭酸ガスの回収・底吹きガスとしての再利用等省エネ技術開発にも指導力を発揮されました。

若い頃、尼崎製造所、和歌山製鉄所でステンレス鋼生産に従事された経験からステンレス鋼にも造詣が深く、日本ステンレス社長在任時には溶銑活用技術を指導しクロム系ステンレス鋼の大幅なコスト低減を図り、また鹿島製造所に当時最新鋭の薄板製造設備を導入し品質改善・コスト合理化を実現しました。日本ステンレス協会会長の要職にも従事され、アジアを中心とした各国のステンレス鋼板工場建設を支援するため、台湾・タイ・インドネシア等に技術支援・積極的な投資を推進し、その貢献に対し各国より高い評価を受けました。

「楽業」を座右の銘とされ、人を愛し信頼し、技術を重んじ、酒をこよなく愛した氏の周囲には94歳の天寿を全うされた最期まで人の輪（和）が絶えることがなく、多くの経営者・技術者・研究者が事務・技術の分け隔てなくその薫陶を受けました。

氏はこの間、本会理事（企画委員長）、評議員として事業の運営に携われたほか、諸団体の要職も歴任し、斯界の発展に多大に寄与されています。氏のこれらの功績に対し、本会からは昭和50年渡辺義介記念賞、昭和59年服部賞、平成5年渡辺義介賞、平成7年製鉄功労賞を授与され、平成9年には名誉会員に推挙されました。このほか、国家栄典として勲三等瑞宝章、藍綬褒章、科学技術庁長官賞（功績賞）の栄誉を受けています。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和2年2月

日本鉄鋼協会 会長 田中敏宏